

第6学年2組 音楽科 学習構想案

日 時 令和6年10月10日(木)第5校時
場 所 音楽室
指導者 教諭 山西浩徳

1 題材構想

題材名	ききどころを見つけて（教育出版 「音楽のおくりもの6」 P28～29）	
題材の目標	(1) 曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりについて理解する。 (2) 音色や旋律の反復、変化などを聴き取り、そのよさや美しさ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見いだして聴く。 (3) 楽器同士の関わり合いや、曲想を捉えて聴くことに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、バイオリンとピアノのアンサンブルに親しむ。	
題材終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）		
「カノン」などバイオリンとピアノのためのソナタ第4楽章の様々な特徴を聴き取り、それらの特徴が音楽をより美しく面白くしていることを理解することで音楽的な「知」を積み重ね、今後出会う楽曲の特徴をより深く理解し、表現や鑑賞、創作などの活動に生かす資質・能力を高め、音楽活動と深く関わる児童。		
本題材で働かせる見方・考え方		
音楽を形作っている、旋律、音色、フレーズ、反復、変化、音楽の縦と横の関係（カノン）等の要素に着目して楽曲の特徴をつかむこと。		
本題材で特に育成を目指す学び方のスキル		
★1「学習の進め方」		★2「コミュニケーション」
その時間の見方・考え方を意識し、自分の学びに合わせて、自分のペースで曲を鑑賞している。また、個別や協働など自分の学び方を選択しながら、自らの進め方で学習している。		曲の鑑賞を通して聴き取ったことを交流するとともに、それを生かしたグループでの表現活動につなげることで、考えを広げたり深めたりしている。

指導計画（3時間取扱い 本時1／3時間）

次	主な学習活動
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【学習問題】 「バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章」のききどころ（仕組み）を見つけて、上田先生にお手紙を書こう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「バイオリンとピアノのためのソナタ第4楽章」における音楽の縦と横の関係（カノン）や、旋律の反復・変化などを聴き取っている。【本時 知】 ・ 音色や音楽の縦と横の関係などを聴き取り、そのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさなどを見だし、まとめている。【思】 ・ 音楽活動を楽しみながら、楽曲の構成や旋律・曲想の特徴などをもとにして、主体的・協働的に音楽を形作っている要素の関わり合いを体の動きで表現しようとしている。【主】

2 児童の学びの実態と教師の手立て

【学び方のスキル】

楽曲を鑑賞してそのよさやおもしろさを味わうには、様々な視点で数多く聴くことと、聴く力の個人差への手立てが必要になると考える。本学級で前回鑑賞の学習を行った際には、特に曲想の変化を聴き取り表現する点において個人差が大きかった。そこで「学習の進め方」については、ICT機器を使用し自分のペースで何度でも曲を鑑賞できる環境を整えるとともに、個別に課題に取り組むか、互いに協働して課題に取り組むかを選択できるようにし、自ら主体的に学ぶことができるようにするとともに、聴き取ったことと感じ取ったことを表現する手立てとなるようにする。

「音」は抽象的な物理現象であり、目に見えるものではない。その楽曲の特徴について理解を深めるには児童一人一人が自らの考えを広げ、伝え合う「コミュニケーション」が有効な手段となる。しかし、本学級の児童は自らの思いを表現すること、伝え合うことについて達成度が十分ではない。そこで、聴き取ったことや感じ取ったことなどを共有できるようにタブレットなどを使用して自らの考えを広げ、友人の考えと比較できる場を設定し深い学びにつなげられるようにする。また、グループで話し合いながら、曲想の変化や音楽を形作っている要素のかかわりを体の動きで表すなどの協働的な学習の場面を設定するようにする。そのことで、児童と楽曲のコミュニケーション、児童相互のコミュニケーションがともに深まり、学習に資すると考える。

【見方・考え方】

「バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章」は、セザール・フランクにより作曲されたバイオリンとピアノによる2重奏曲である。循環形式などフランクの音楽の手法が生かされた名曲であるが、その最大の特徴はバイオリンとピアノが同等に扱われていることである（2つの楽器の音色）。そのため、同じ旋律を時間をずらして演奏する（音楽の縦と横の関係「カノン」・旋律）や、旋律が同じであっても、場面によって伴奏楽器が入れ替わる（反復・変化）、2つの旋律が交互に繰り返し演奏される（循環形式）など、様々な作曲技法が用いられている。児童は一人一人音楽的な知識や経験に差があり、ただ聴くだけでは曲のよさを味わうことが難しい。そこで、鑑賞の際にはこれらの要素を鑑賞するための視点として設定し、楽曲の特徴の理解につなげられるようにする。

3 本時の学習

(1) 本時の目標と学び方のスキルの具体

本時の目標	楽器の音色などに着目して聴き、「バイオリンとピアノのためのソナタ第4楽章」における音楽の縦と横の関係（カノン）の仕組みを聴き取る。
本時における、児童の学び方のスキルの具体	
★1「学習の進め方」	★2「コミュニケーション」
・楽曲の鑑賞を自らのペースで行うとともに、個別で学習するか、友人と協働して行うかを選択している。	・タブレットのアプリを用いて考えをまとめることで自分の考えを広げることや深めることに資するようにする。
本時において働かせる、児童の見方・考え方の具体	
ピアノとバイオリンが同じ旋律を追いかけるように演奏していることや、役割を交代しながら演奏している仕組みを、旋律やフレーズ、音色、音楽の縦と横の関係「カノン」等の見方・考え方を用いてつかんでいくようにする。	

(2) 本時の展開

過程	時間目安	児童の学習活動例 (◇予想される児童の発言や考え・発問 指示 説明 ◎主発問 ○深める発問 ★児童の学び方のスキル)	指導上の留意事項 (★スキル発揮に繋がる教師の支援, ○教科の特質に応じた支援, □その他の支援)
導入 課題設定	10分	<p>1 題材の目標を知り、楽曲の第1主題をピアノで味わう。 ・今日から「バイオリンとピアノのためのソナタ第4楽章」という曲を学習します。学習の終わりにこの曲のよさを紹介するお手紙を書いてもらいます。まず、曲に出てくる旋律を味わいましょう。</p> <p>2 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【めあて】「バイオリンとピアノのためのソナタ第4楽章」の曲の仕組みをとらえよう。 ～①と③に着目して、バイオリンとピアノのかかわりあいをもとめよう～</p> </div>	<p>【児童が見方・考え方を働かせるための手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> □単元のゴールを示すことで、学習に対して見通しと意欲を持てるようにする。 ○ボールなどの具体物を使って旋律の特徴をつかむことで音楽との一体感につながるようにするとともに、音楽の見方・考え方（旋律・フレーズ）をとらえて鑑賞することにつながるようにする。
展開 情報収集・整理分析	25分	<p>3 「バイオリンとピアノのためのソナタ第4楽章」の前半を鑑賞し、音楽の仕組みについて考える。【情報収集】</p> <p>(1)全員で聴く。 ◎では、曲を聴いてみましょう。バイオリンがどのように出てくるかに気を付けて聴いてください。</p> <p>(2)自分の聴き方で聴く。 ◎次に自分で聴いて気づきを集めましょう。学習の仕方は2つのコースから選んでください。1人でも、友だちと協力してもよいです。</p> <p style="text-align: center;">★1★2</p> <p style="padding-left: 20px;">Aコース ①と③を聴く。→どちらも旋律はア Bコース ①②③④を順番に聞く→旋律はアイアイ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【学習の進め方】 ①と③の気づきをスライドに書く→書いたら黒板や友人にアウトプットか、②と④の違いの聴き取りを選ぶ。→①と③を体の動きで表現する</p> </div> <p>4 気づきをもとに、「バイオリンとピアノのためのソナタ第4楽章」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解を深める。 【整理・分析】 ・バイオリン役とピアノ役に分かれてフレーズを表現してみましょう。 ○バイオリンとピアノがどのようにかかわりあっていましたか？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>【まとめの例】：バイオリンとピアノのためのソナタ第4楽章は、ピアノとバイオリンが追いかけあったり、役割を交代したりしている。</p> </div>	<p>【児童が見方・考え方を働かせるための手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音色の見方・考え方を用いてバイオリンの動きに気をつけて聴き、2つの楽器の関わり方の聴き取りにつなぐ手立てとなるようにする。 ★鑑賞に際してはクラウド上に音源を準備し、自分のペースで鑑賞できるようにする。併せて個別か協働かを選択できるようにし、学び方のスキルの向上につなげるようにする。 □指導者は児童のスライドを確認しながら、必要に応じて個別に支援を行うようにする。 ○必要に応じて黒板にアウトプットするように促すことで、楽器同士の関わり合いの理解につなげるようにする。 ○カノンの動きを体で表現することで、音楽との一体感を味わうとともに、音楽の特徴の理解につなげるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【具体的評価規準】知①（方法：スライド・体の動き） ○言葉や体の動きで曲の仕組みを表現することができる。</p> </div>
終末 まとめ・表現	10分	<p>5 スプレッドシートに振り返りをかく。★2 【まとめ・表現】 ○お手紙に書けそうな「よさ」はありましたか？まとめてみてください。</p> <p>6 次時の見通しをもつ。 ・次回はグループで、ピアノとバイオリンの動きが見えるように体を動かしてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> □振り返りの視点を提示し、書き出しの例や友達の振り返りを参照してもよいことを伝えておく。 □題材のゴールにつながる振り返りとなるようにする。 □学習の見通しを持つことで、次時以降への意欲を高めることに資するようにする。